

## N35c Var Cas 06(多胡天体)のデジタルカメラ画像からの測光

清田 誠一郎 (VSOLJ)

多胡昭彦氏が、2006年10月に発見した増光天体は、その後の観測から、太陽系近傍で起こったマイクロレンズ現象である可能性が高い。光度曲線の解析から、マイクロレンズを起こした天体についての情報が得られつつある。発見の報告後には、CCDによる測光が行われたが、一方、ピークおよび増光部分のデータは、突発現象天体の捜索用または別の目的で撮られたデジタルカメラによる画像データに限られている。アマチュア捜索者が公表していたデジタルカメラ画像から測光を行った際の問題点を等を報告する。

デジタルカメラは、解析し易いデジタルデータが得られるという利点はあるものの、冷却 CCD カメラよりダイナミックレンジが狭い等の欠点がみられる。また、得られる画像は、カメラ内部の回路により画像処理を受けた後の画像であり、画像ごとにキャリブレーションを行う必要があった。このため、0.1等より精度の良い測光値を一意に得ること難しかった。分光感度については、Var Cas 06 が、A型スペクトル星あったことから問題は目立たなかった。

近年、アマチュアによる新星等の突発現象天体捜索は、デジタルカメラに移行しつつあり、これらのデータを活かすためのノウハウの蓄積が必要である。